

2004 年度 学長裁量経費（プロジェクト経費）実施報告書

テーマ	国際交流協定校との連携による教員養成大学学生の平和交流プログラム		
代表者及び共同研究者名 (代表者に○印)	氏 名	所属部局講座等	役割分担
	○鈴木眞雄	学校教育講座	統括
	山根真理	家政教育講座	連絡調整
	佐藤洋一	理科教育講座	教養教育担当
	杉浦正好	英語科教育講座	英語教育
	江島徹郎	情報教育講座	IT 教育
研究成果の概要			
<p>2005 年度のプロジェクト「国際交流協定校との連携による教員養成大学学生の平和交流プロジェクト(その 2)―教育実習と大学祭での交流活動―」との継続性のあるプロジェクトであるため、2 年分の活動をあわせて報告する。</p>			
<p>I. 教養教育への示唆</p> <p>2004 年 9 月に韓国江華郡の富近里遺跡で巨大石遺跡（支石墓 dolmen）を見学し、日本と朝鮮半島におよそ 3 千年前に同じ文化を共有した証拠の一つを目の当たりにした。その体験を通して、南インド（タミルナード）から稲作・金属器、「ことば」などが伝来し、その後の共通的文化の土台ともなったという「説」を実証するという、日本と韓国に関する教養教育充実のための示唆を得た。</p>			
<p>II. 英語科教育における研究交流</p> <p>2004 年 11 月に、英語教育の教員・学生が晋州教育大学校を訪問することにより、韓国の小学校教育の実情を深く理解できた。この研究を通して、日本の小学校で本格的に英語教育に取り組むための示唆を得られた。</p>			
<p>III. 愛知教育大学大学祭での学生交流</p> <p>2005 年 5 月、愛知教育大学に晋州教育大学の学生・教職員が来訪し、大学祭および近隣の小学校でサムルノリ（韓国の伝統音楽）演奏を行うなど、学生相互および地域との交流を行った。</p>			
<p>IV. 韓国研修の実施（2005 年 9 月）</p> <p>① 晋州教育大学校の大学祭への参加や晋州教大および嶺南大学校の学生とともに史跡見学などを通して、学生主体の異文化交流を行った。</p> <p>② 小学校や地域の小学校で模擬授業や日本文化紹介を行い、韓国の小学校教員と懇談することで、韓国の教育事情の理解を深めた。この活動は、教員養成大学における国際交流のカリキュラム化に示唆を与えるところが大きかった。</p> <p>③ 晋州教育大学の大学院生と、院生同士の懇談の時間をもち、大学院生の共同研究のあり方について議論した。</p>			

④インターネットの Blog を中心とした SWMS と呼ぶシステムを用いて学生の活動を支援した。また、今後の交流に向けて、e-Learning システム「かきつばた」を整備し、すでに運用を開始している。

※研修の実施にあたって、財団法人日韓文化交流基金の助成を受け、大学院生の交流を充実させることができた。

V.公開シンポジウム

2005 年 10 月、上記研修の成果を愛知教育大学において、公開シンポジウムの形で公表した。あわせて晋州教育大学の李榮晩氏、孔泳泰氏を招聘し、両大学の交流および韓国における教育の現状について講演をしていただいた。

※シンポジウム実施にあたって、財団法人大幸財団の助成を受けた。

VI.報告書の刊行

I～Vの活動の成果をまとめ、報告書を刊行した。